

算 数 通 信

テーマ：い い 問 題

教科書には、よい問題が多く載せられています。例えば、5年生【考える力をのばそう「表を使って考える」】(P118～P119)です。

◎「2量の変化の関係を、表を使ってきまりを見つけ、きまりとして見つけた数値を使って、式に立て、数量関係を整理する。」というものです。

問題

川の西側と東側をつなぐ、長さが285mの橋を建設する工事をしています。西側は、昨日までに30m造り、今日から毎日6mずつ造ります。東側は、今日から造り始め、毎日9mずつ造ります。

西側と東側につながるのに、あと何日かかりますか。

	昨日 まで	1日 (今日)	2日	3日	4日
西側 (m)					
東側 (m)					

絵

みさぎ その日に造った橋の長さの和に注目すると・・・

このような問題を指導して思うことは、「このレベルの問題は自力で解決してほしい。」ということです。しかし、目の前には、解決に向かう行動を起こさない子どもが存在します。ノートに何かメモ書きはするものの、ずっと同じところで立ち止まっている子どももいます。あるいは、表や図に整理しないで、思いつきで答えを求めようとする子どももいます。どれも学習内容の理解が難しい子どもの状態です。

そこで、子どもたちが「自力で問題を理解」することを求めた授業展開を考えなければなりません。

題意をどうやって把握させるか？

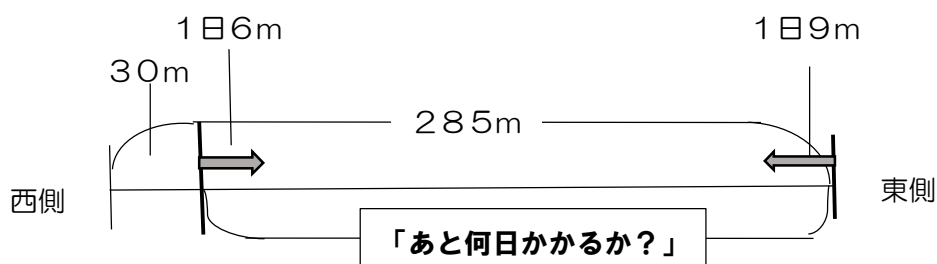
子どもが「自力で問題を理解」するには、まず題意をどうやって把握させるかということを考える必要があります。

それは、問題内容を、絵や図、表に表して、説明させることだと思います。例えば、この問題のだと、次のようにしてみてもはどうでしょう。

↑ この問題を簡単な図にして、友だちに説明できるようにしてみましょう。ただし、その図に、必要な言葉や数字は、問題文から抜き出して書いてください。

※ 上の問題文の ____ 線は、下の図の記入で使った言葉や数字です。問題文の文章どおりに図に書いていけばよいことが分かります。そのことを子どもから引き出します。

◆ 図を見て、問題文が説明できれば「Ok!」です。



また、「あと何日かかるか」は、この図のどこに書き込むか考えることは必要です。（上の太線から太線までの間）

問題が見えてきた！

この図と問題を照応すると、意識されていない文章があることに気づきます。それは、西側も東側も、「今日から造ります。」という文章です。だから30mは入りません。そのことは、図に表してみて気づく児童も多いと思います。

そして、ここに隠れた問題を作ると、「あと何mを今日から造るのでしょうか。」「255mを今日から何日で造るのでしょうか。」です。

きまりとなる数値は、表によって求めることになります。

算数の文章には、無駄な言葉がありません。こんな短い問題文でも、数量関係を把握する必要があるので、読解の難易度が上がります。短いから簡単ではなく、短くて難しいのが、算数の問題文です。だから、問題文の題意をつかむコツを得るために、どこかの時間で「図を使って説明する活動」をとって行う必要があると思います。